

— 芝浦工業大学 —

2月3日 前期日程 英語

解答・解説

I

1. a. 2. c. 3. b. 4. a.

1. A の「写真のこの料理おいしそうだね」に対して、空欄の B の発言「私はこの料理食べたことがない」次の「でも挑戦してみるの悪くないと思うよ」につながる。
2. 空欄の B の発言は「これは私が好きなとはほど遠い」
3. 空欄の前の A の発言 **in that case**(そういう場合なら、もしそうなら)を受け、「気にするな」
4. 空欄の前の A の発言「君はお金で、本当の幸せを買うことはできない」を踏まえ、空欄は「君はこのことについて考える？」

II

1. b. 2. b. 3. d.

1. 最初の列車と次の列車の発車の時間差が 2 時間。次の列車が最初の列車に追いつくのにかかった時間が 4 時間。つまり最初の列車は、追いつかれる地点まで行くのに 6 時間かかっている。ここまでの距離は次の列車の速度とのかかった時間から、240 km。よって最初の列車の速度は、 $240 \div 6 = 40$ (km/h)。
2. 1 つ前の期の 2018 年第 4 期と比べて、利益は同じで支出が 50% 増とある。よって 2019 年第 1 期は利益が 10 billion yen で支出が 15 billion yen。総収入が 25 billion yen だと判断でき、その値から利益の割合を算出する。 $10 \div 25 = 0.4$ 。つまり 40%。
3. d. の後半 **although** から後の内容が、下のグラフの内容と一致しない。lectures と chefs 以外はよりも programmers より週の平均労働時間が長い。

III

1. c. 2. b. 3. c. 4. a. 5. b. 6. c. 7. d. 8. b. 9. d. 10. a.

1. if 節から、仮定法過去完了の文であると判断する。
2. marry は他動詞。空欄の前の Sachiko は動名詞 marrying の意味上の主語。
3. 主節の時制が過去形。時制の一致の原則より。
4. be accustomed to で「～に慣れている」to は前置詞で後には名詞(相当語句)が来る。be used to～ing と同意表現。
5. no matter how は、後に形容詞または副詞を伴って「どんなに～でも」1 語で however とも言える。
6. mistaken は「(人が) […のことで/…の点で] 誤った、誤解した[about/with]」の意味の形容詞。
7. 強調構文。it is not until～that…「～になって初めて…」という意味。
8. up to～で「～次第で、～の義務で、～の責任で」という意味。
9. it is worth～ing で「～する価値がある」という意味。
10. by way of～で「～を経由して」という意味。

IV

1. d. 2. b. 3. c. 4. a. 5. b. 6. d. 7. d. 8. c. 9. c. 10. a.

1. realize 「～をはっきり理解する、悟る」
2. 「私はイチローよりずっと上手に泳げる」ということは「彼(=イチロー)は私より泳ぐのが上手くな

い」ということである。

3. put out 「(火など)を消す」
4. precise 「精密な」
5. admission fee 「入場料」
6. stationary 「動かない、静止した」
7. be tied up on a phone 「電話で手がふさがっている」
8. outlet 「コンセント、差し込み口」
9. inappropriate 「不適切な」 it は形式主語で、不定詞句が真の主語となっている。
10. completely 「完全に」 「完全にタバコを吸うのをやめて以来、まったく喫煙していない」

V

1. comparable または compared 2. existence 3. soften 4. suspicion

1. comparable 「[…に] 匹敵する [to…]」 という意味の形容詞。compared でも同様の意味なので、どちらも正解と判断。
2. existence は「存在」という意味の名詞。
3. soften この場合は自動詞で「柔らかくなる」
4. suspicion は「疑い」という意味の動詞。

VI ※A, B の順に

1. c, e 2. g, b 3. d, b 4. c, a 5. e, g

1. After having his name called, he was given a graduation certificate.
「名前が呼ばれた後で、彼は卒業証書が渡された」 after の後は動名詞 having が成す動名詞句。第 5 文型の have。
2. According to the teacher, the students who failed the course were more or less troubled by English grammar.
「その先生によると、その課程で落第した学生は、程度の差はあれ英文法に悩まされている」 関係代名詞 who が導く節は course まで。more or less は「多かれ少なかれ、程度の差はあれ」 be troubled で「悩む、困っている」
3. The wisdom of the past is of value when it merges with that of the present.
「過去の知恵は、現在の知恵に溶け込んだ時価値あるものになる」 of value は【of+抽象名詞】=形容詞 valuable と同義。when 節の動詞句 merge with~は「~に合流する、溶け込む」という意味。
4. He took no notice of what occurred to his family.
「彼は自分の家族に起こることに、関心がなかった」 take notice of~で「~に気づく、関心を持つ」という意味。
5. Should you require anything else, feel free to call us at any time.
「万が一他に何か必要あれば、いつでも遠慮なく私に電話をしてください」 主節 feel free は後に不定詞句を伴い「自由に~する、遠慮なく~する」という意味。前半が従属節で if が省略されて、倒置がおきている。

VII

1. e. 2. d.

1. 空所の直前の heat を受け、these heat で始まる E.が最初に。C.で初めて出ている megawatts electric (MWe)を A.で the MWe value という形でつながる点にも注目。C→A という流れは見出せる。
2. D.で「インフレが進み過ぎると、経済に悪影響が出る」とあり、その内容を受け、C.「逆にインフレが適切なレベルで抑えられると…」に続くとうまくつながる。

VIII

1. **A** b. **B** d. **C** c. **D** d. **E** a.
 2. (ア) b. (イ) c. (ウ) b. (エ) a. (オ) b. (カ) d. (キ) a. (ク) a.
 3. その協会は、所属するアスリートたちのニーズに合わせた、新しい VR トレーニング経験の基盤となる、360度[全方向]ビデオの撮影と製作を続けている。
 4. b. e. f. i.
1. **A** 後に完全文が続いていることに注目。関係副詞を入。
B end up～ing 「ついには～することになる」
C 形容詞の unable が入る。d. の disable は動詞。
D given that～で「～であることを考慮に入れると」※～の箇所には節が来る
E despite が入る。後に続く the ability を軸にした、名詞句を目的語にした前置詞句を形成。
 2. (ア) testament 「証明するもの」
(イ) 下線部(イ)を含む文の前文の主語・almost all the top athletes に対応している。
(ウ) a cold call は「売り込み電話、訪問販売」という意味。
(エ) hang up on me が「(私が話を終えないうちに)電話を切った」didn't で否定しているから、「話をやめずに続けた」という意味になる。
(オ) 前文の the 360-degree videos that can be viewed を受ける。
(カ) cutting edge で「最先端、先頭」という意味。
(キ) kick in で「始まる、作動する」という意味。
(ク) it は VR training を指していて、それが official になったということは「使うようになった」ということ。
 3. 主語が the organization で動詞が continues、その目的語が shooting と creating で両者共通の目的語となっているのが its own 360-degree videos。shoot は「～を撮影する」。その後の as は前置詞で「～として」という意味。tailor は「～を作る、合わせる」という意味の他動詞。この文においては tailored から文末の needs までで過去分詞の形容詞的用法で、前の名詞句 new VR training experices を修飾している。
 4. b. 第2段落の内容に一致。
e. 第4段落の内容に一致。
f. 第5段落の内容に一致。
i. 第7段落の内容に一致。

総評

I 会話文読解

平易とまでは言えないレベル。すぐには正解が出なそう。

II 英文で書かれた算数(中学初級の数学)の問題を解かせる問題

問われている内容(算数(数学)的な視点から)は平易。ただし正確に英文が読み取れるかがポイント。
2. は少々読み取りづらい。3. の問題文は読みやすいが、そもそも **incorrect**…つまり「誤っている」ものを選ぶということを踏まえないとまずい。この単語に下線すら引かれていないので注意が必要。

III 短文空欄補充 選択問題(文法)

全体的に易しい問題が多いが、6. で **mistaken** の形容詞としての意味・用法を知らないと、また10. の **by way of**～という熟語を知らないと、首尾よく正解の選択肢を解答できないであろう。

IV 短文空欄補充 選択問題(語彙)

昨年度の同じタイプの大問に比べると、少々レベルアップしている気がします。

V 派生語を書かせる問題

正確に綴れるかということになると、少々難しいところもあるかもしれないが、少なくともどの品詞にすればよいかは判別したい。

VI 整序英作文

3. は取り組みづらかったのではなかろうか。【**of+抽象名詞=形容詞**】に気づけたとしても、**merge with**～はハイレベル。他の問題も、簡単にできるものは少ない印象。

VII 文整序問題

標準的。律儀に最初から順番に並べていく…だけでなく、途中を部分的に攻めていくことも大切。

VIII 長文総合問題

例年よりも難しいのではないのでしょうか。2. の(オ)は、c. だと考えた人も多かったと思われるが、c. の内容は a. の **video games** を修飾する節の中心の中身であり、c. が正解で a. が不正解というのはあり得ないことかと。両者は連動している。3. の和訳は **shooting** と **creating** の並列関係を見出せたとしても、**shoot** が「撮影する」という意味だと認識するのがやや難。また **tailored** という語もなじみが薄いのでは。ただ仮に知らなかったとしても、分詞の形容詞的用法であると気づき、その上で意味(和訳)をある程度予測する…ということも必要。最後の内容一致は、比較的やりやすそう。

～全体を通して～

例年の芝浦工業大学のレベル・ボリュームと比較すると、やりづらい問題が増えた印象です。